

(様式3)

自己評価票

作成日 平成26年10月14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870800257		
法人名	株式会社 和香紗		
事業所名	グループホーム 美里	ユニット名	1階
所在地	〒301-0000 茨城県龍ヶ崎市4353-1		
自己評価作成日	平成26年3月27日	評価結果 市町村受理日	平成26年10月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kihon=truo&JigyosyoCd=0870800257-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年5月27日	評価機関 決 済 日	平成26年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>*龍ヶ崎でいつまでも暮らしたい*</p> <p>・住み慣れた町で自分らしい生活を健やかに・ 私たちは家庭的で安心した暮らしを大切に致します 私たちは安全で健康的な生活を大切に致します 私たちは人間性を尊重しその人らしい生活を大切に致します 私たちは地域との交流を大切に致します 私たちは利用者ご家族の思いを尊重し相談・支援致します</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は住宅地の一角にあり、事業所自体が町内会の一員として回覧板の受け渡しや地域の清掃活動、祭りの準備などに利用者と職員が積極的に参加し、地域との交流を大切にしている。 管理者は職員と日頃から何でも話せる関係を築き、意見や要望を聞いて働き易い職場の環境づくりに力を入れているほか、職員同士も信頼関係を築いている。 地域のボランティアを定期的に受け入れているほか、月2回講師を招き音楽療法を行うなど、利用者のリハビリテーションを支援している。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開業当時に代表と職員が共同で事業所理念を作成し現在に至っている。職員入職の際には、代表自ら事業所理念について説明や指導をして、新人研修を行っている。また、毎朝礼時、職員全員で理念の復唱をし確認を行っている。	管理者と職員で協議して地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、玄関や事務所に掲示している。管理者と職員は事業所の理念を毎日の朝礼時に唱和して共有を図り、日々の実践につなげている。新規採用職員には、代表者自らが理念について研修を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会に入会しており、夏祭りの準備や清掃作業、回覧板の受け渡し、冠婚葬祭時の手伝い、町内会総会等に参加をしている。また事業所で行事を行う際は、ご近所の方やご家族様を招待し交流を図っている。利用者様も地域の一員で有ることを忘れないで頂ける様な取り組みを行っている。	町内会に加入し、利用者は職員と一緒に地域の清掃活動や祭りの準備に積極的に参加しているほか、回覧板の受け渡しを行うなど、地域の一員として日々の生活を送っている。利用者は散歩や買い物時に地域の人々と挨拶を交わすなど、日常的に交流している。歌やオカリナ演奏などの地域のボランティアを定期的に受け入れ、利用者が地域の人々と交流ができるよう支援をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム内での行事には地域の方々に案内や参加を呼びかけ施設の様子や利用者様の様子、職員がどの様な関わりをしているか見て頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	イベントに合わせ定期的に運営推進会議を開催し実施出来ている。ご家族様、地域住民の方、市役所職員の方に参加して頂き、各ユニット毎・管理者より状況報告を行いご家族様から質疑応答、要望を伺っている。また市役所職員から助言、アドバイスを受け入れ運営をより良く、更にサービス向上出来る様に取り組んでいる。ご家族様同士で情報交換を行ったり、交流の場にもなっている。	運営推進会議は家族等や市職員、民生委員、区長、職員で2ヶ月に1回開催しているが、民生委員や区長が出席していない会議が見られる。会議では事業所の活動や行事予定などの報告をするほか、行政からの連絡事項や出席者と活発な意見交換を行い、「避難訓練のマニュアルの作成」や「利用者の意識付けのために避難訓練をレクリエーションとして取り入れてみてはどうか」など、出た意見等を職員会議で報告して検討し、サービスの質の向上に活かすよう努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問や近況報告等連絡は密に取り、アドバイスを受けている。毎月ホーム日誌や管理者日誌を届け様子や状況を伝えている。	管理者は日頃から市担当者に分からないことがあった時には電話で連絡をしているほか、市担当課に月1回足を運び、毎月発行している事業所便りを届けるとともに、空室状況やケアサービスの取組みを伝え、連携を図りながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症の周辺症状・行動障害の強い利用者様に関しても身体に危険が及ばない場合は身体拘束を行わず、その人らしい生活の継続・生活の質の低下防止に向けてカンファレンス等で話し合いの場を持ち、対応・対策を検討している。	職員は身体拘束の内容とその弊害について理解しており、居室や玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。管理者は身体拘束廃止マニュアルを作成するとともに、職員が身体拘束に関する外部研修や内部研修を受講する機会を設けている。転倒防止のため、やむを得ずベットに片側2点柵を使用している利用者が1名いるが、家族等に説明して同意を得るとともに、経過観察記録に記載し、定期的に見直しや検討をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する内・外部研修に参加・マニュアルを身近な所に設置し虐待に関する理解を深めている。利用者様に身体的、精神的にも拘束する事のないサービスを提供出来る様に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関する外部研修に参加し必要な場合は関係者に相談出来る体制をとっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際にはわかりやすく説明を行い疑問や質問に関しても丁寧に相談を受ける様心掛けている。ご家族様の意向や意見をお聞きし安心して頂ける様な対応を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ではご家族様のご要望・ご意見を聞ける様に取り組んでいる。また、ホーム内にご意見箱を設置している。ご家族様の面会時には近況報告をしご希望・ご意見も頂く様になっている。利用者様より日々の会話や関わりの中で出来るだけ声を拾い運営上改善の課題が上がった時は迅速な対応と改善に取り組み運営に反映させている。	利用者からは日常の問いかけや会話の中から、家族等からは来訪時や運営推進会議、イベント時などに意見や要望を聴くようにしているほか、年に1回イベント時に家族アンケートを実施しており、来年度は無記名の家族アンケートを実施する予定である。「洋服を買いに行行って欲しい」など、出た要望等を検討し、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は定期的に職員との面談する機会を設け、また毎月開催しているカンファレンス等で職員が日頃から思っている事や意見・提案等を聞いている。改善に向けての意見交換を行っている。運営に反映出来る事は反映する取り組みを行っている。	管理者は日頃から職員に話しかけてコミュニケーションを図り、職員が意見や提案を出し易い環境を築いているほか、個々の事情を汲んだ働き易い職場の環境づくりに努めている。 代表者と管理者は年に2回職員と個人面談を行っているほか、月1回の職員会議で職員の意見や要望を聞いており、行事の提案や勤務の交換など、出た意見等を検討して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入しており職員のレベルに合わせた目標設定・管理を行い実績に伴い給与の交渉を行っている。研修や勉強会の場を設け各自が向上心を持って働ける様に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が其々興味のある研修等積極的に参加出来る様に資料を提示したり促しを行っている。また、法人内で介護技術を向上する為にキャリアデザイン研修を実施中。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業所の見学を予定し交流を持てる様にする。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のアセスメントを十分に行いご利用者様の希望等も伺う様になっている。職員全員でコミュニケーションをとり情報収集を行い安心して生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にも必ず面談調査を行い不安や要望等傾聴する様に心掛けている。また困っている事等相談して頂ける様な環境づくり・雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実際に入居サービスが必要なのか、出来る限り在宅での生活を続けて行く方法はないのか、安易に入居を受け入れるのではなく、担当ケアマネージャーにも相談し、ご本人に合ったサービス提供が出来る様に取り組んでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、日常生活行為の自立支援を援助している。出来る事は行って頂き、出来ない部分は職員に手助けして貰いながら職員と共にいご自身で出来る喜びを感じて頂けるに配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の様子をお手紙やメール、電話等で定期的にお伝えしている。時間がある際は面会にもいらして頂ける様に連絡を密に行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様にも知人の方々の訪問にはいつでも気軽に来訪して頂ける様に声掛けしている。ホームに入居されていても馴染みの方々との関係が途絶える事が無い様に支援している。また、ご家族様のご協力の下、馴染みの美容室や外出を行っている。	入居時に利用者や家族等から話を聴いたり、基本情報シートを活用したりして利用者のこれまでの生活歴や馴染みの人、場所などを把握している。 利用者の馴染みの人がいつでも気軽に来訪できるよう笑顔で対応するほか、馴染みの美容室やスーパーに同行するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入し一人一人が孤立せぬ様利用者様同士の関係作りに努めている。ご本人様が望まれる座席考慮やイベントや日々のレクリエーション等を通じて交流が図れる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したご家族に関してもご家族様の要望が有ればホームの広報誌を毎月郵送している。ご家族様やご本人様の相談・支援が必要で有れば声を掛けて頂ける様お伝えしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントでご本人の思いや望む暮らしについて聞き取りをしている。また一人一人と向き合っている。また一人一人と向き合っている。意思表示・伝達の困難な場合は普段の生活の中での様子から利用者様の思いや意向の把握に努めている。	職員は日常の係わりや会話を通して利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めるとともに、個人ファイルに記載して職員会議で話し合い、共有している。意思表示が困難な利用者の場合は、日々の生活の中での表情や行動から、利用者の思いや意向の把握に努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際はご家族様・担当ケアマネージャー福祉サービスの職員さんから情報提供して頂きご本人様の生活環境や生活歴や馴染みのあるものなどアセスメントしている。またご本人様との日々の会話の中から情報を得て把握に努めている。	/		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に情報収集・情報交換を職員同士で行い現状の把握に努めている。毎月のカンファレンスでご本人様の心身状態・有する力等の現状の把握・以前の状態との変化・今後の対応等話し合いを行っている。状態の変化が有れば事細かく記録に残し変化の把握にも努めている。				
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にアセスメントを行い、カンファレンスにて検討話し合いを行っている。介護計画作成にはアセスメント・ご本人やご家族様の意向を反映させ介護計画作成に努めている。変化が見られた際は随時、評価・見直しを行い介護計画書の作成に努めている。	担当職員が利用者や家族等の希望や主治医の意見を取り入れて介護計画の原案を作成し、ケアプラン検討会議で検討して計画作成担当者と一緒に介護計画を作成するとともに、3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている。利用者の心身の状態に変化が生じた場合はその都度見直し、利用者や家族等の確認を得ている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活様子が把握できる様に各個人の生活記録に日頃から細かく書くようにしている。またそこで得た気づきや疑問点・情報も介護計画に反映出来る様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例としてホームに入居に不安を感じられている利用者様に関しては入居して暫くの間ホームと在宅両方での生活を提案（ショートステイ的なサービス）徐々にホームでの生活に慣れて頂ける様なサービスを行っている。また入居前に体験等も行って頂きホームの環境を知って頂ける様に配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや慰問の団体様の受入れを積極的に行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際には、希望されるかかりつけ医の有無を確認しているが、特に希望がない場合は当ホームに往診で来てくださっている医師がいることを説明している。希望される方には、かかりつけ医の変更にも応じている。入居者様の健康管理にも医師と連携が図れている。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援しているが、殆どの利用者が協力医療機関の医師を主治医としている。月に2回訪問診療を受診できる体制になっており、受診結果は受診記録に記載するとともに、家族等に報告している。同一法人の看護職員による週1回の健康管理を実施している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームでは、週1日以上看護師の訪問があり、入居者様の健康管理をしている。往診医の相談や報告も看護師がおこなっている為、医療機関との連携がスムーズに保たれている。夜間の急変時の対応にもオンコール体制を整えており看護が受けられる様に支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際はホームから病院関係者に詳しく情報提供をしている。医療機関の相談員との連絡を密にして相談をしながら、入院先での情報把握に努め退院後の対応方法に備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、家族に対して当ホームの終末期に向けた指針を明記し、説明をしている。その後も、ケアプランの説明時や必要に応じてご本人やご家族の意向確認をしている。ホームとして出来る事、出来ない事がある事も伝えて主治医と相談しながら支援に取り組んでいる。	契約時に利用者や家族等に事業所の看取りに関する指針を説明するとともに、書面で同意を得ている。 利用者の状態の変化に応じて段階毎に利用者や家族等の意向を確認し、最終段階時に家族等から看取りに関する同意書を得、職員で共有して看取りを実施している。 事業所は看取りに関する指針やターミナルケアマニュアルを作成するとともに、協力医療機関との24時間のオンコール体制を整えているが、職員研修を実施するまでには至っていない。	看取りの経験を活かし全職員が共通認識のもとで安心して対応ができるよう、職員を対象に看取りの研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の体調の急変に対する対応等は看護師からの指導を受けている。必要に応じて応急処置等の指導を救急隊員から受ける予定でいる。緊急対応マニュアルとして身近な所に設置し常に確認出来る様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、避難場所や経路、避難救助方法の確認を行っている。消防署隊員からも指導を受けている。避難訓練には地域の方の参加もあり、協力体制も整っている。	年2回夜間を想定した避難訓練を実施し、その後運営推進会議を開催して避難訓練の反省点や課題について話し合っているが、近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 避難訓練の実施計画は作成しているが、実施記録を作成するまでには至っていない。 訓練で明らかになった課題は運営推進会議で話し合い、議事録に記載して職員で共有し、次の訓練に活かしている。 災害に備えて食糧や飲料水を備蓄している。	運営推進会議や町内会長を通して事業所の避難訓練に近隣住民の参加を呼びかけることを期待する。 避難訓練の実施記録を作成することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内でコミュニケーション技法に関する研修を行い、声かけの仕方やプライバシー保護に関しても学ぶ機会を設けている。常日頃から職員一人一人が言葉掛け、言葉使いについても考慮しながら対応している。	職員は事業所独自のコミュニケーション技法に関する研修を受講し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。 個人情報に関する書類は鍵のかかる事務所に保管し、情報の漏洩に留意している。 個人情報を使用する場合は家族等の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的なサービスをするのではなく、利用者様の意思を尊重し常に利用者様に選択していただけるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先せず、ご利用者様一人一人の生活ペースを大切にしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る衣服は利用者様本人が決定することができるように声かけしている。認知症で選択ができなくなっている方でも、入浴の着替えの準備等は利用者様と一緒にしている。又、定期的に理容師・美容師さんが来所し散髪を実施している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作成にはご利用様との日常会話の中から食べたい物を聞き出したり、栄養士・職員達の意見も取り入れ、食生活委員会メンバーを中心に検討、作成している。食事準備では野菜の下ごしらえや味見、盛り付け、片付けも職員と一緒にして頂いたりしている。	利用者の意見を取り入れて食生活委員会で1週間の献立を立て、職員と利用者が食材をスーパーや隣の八百屋に買い出しに行っている。 利用者と職員と一緒に調理をして同じ食卓を囲みながら温かい食事を摂っている。 利用者は盛り付けや配膳、後片付けなどの役割を担いながら食事を楽しんでいる。 正月や節分、雛祭り、誕生会などの行事食を取り入れ、食事が楽しみなものになるよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録に記し・確認をして、摂取量の把握をしている。ご本人の状態に合わせてながら提供時間や提供量の調整をしている。食事が摂れない場合はご本人様の好む物を補食として提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前のうがいを促し細菌による感染を防いでいる。毎食後口腔ケアを行っている。ご自身でできる方にはして頂き、出来ない方には、その都度介助している。夕食後は義歯を預かり洗浄し、清潔保持をしている。食事摂取からも口腔内に異変がないか等観察している。異変がある際は医療機関に相談して受診・訪診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックに記入をし、個々の排泄パターンの把握をしている。利用者様其々に合わせた声かけや誘導を行い、排せつの失敗からの自尊心の喪失がないように支援している。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らって声かけ誘導し、トイレで排泄ができるように支援をしている。 おむつを使用している利用者でも、日中は紙パンツを使用して声かけ誘導し、トイレで排泄ができるように支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り自然排便ができるように、日頃より運動量や水分摂取量の確保や毎朝牛乳の提供・手作りヨーグルトの提供・野菜を多く摂取出来る様なメニューの配慮も行っている。をしている。便秘時は、腹部マッサージなども行っている。看護師にも相談や助言をもらいながら支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴表を用いて、個々の入浴日の把握をしている。体調を考慮しながらも週2～3回の入浴をしている。時間など入浴者の希望も取り入れて対応している。	入浴は週2回から3回を基本としているが、利用者の希望にそって毎日の入浴や希望の時間に合わせた入浴も支援している。入浴を拒む利用者には強要はせず、時間をずらしたり、声かけする職員を替えたりするなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安易に安定剤や睡眠導入剤の処方を依頼せずに、個々の生活リズムを大切にしながら支援している。眠れない原因は何かアセスメントをしている。又、室温・湿度・光や音の調整、寝具の清潔保持・調節にも配慮し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に処方箋綴りを作成し身近に設置している。看護師から服薬の際の留意点等を指導受けている。服薬後の状態観察も欠かさずおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事や出来ない事などアセスメントを行い、家事援助の中からも役割りとなるようなことをみつけだし、役割りを担うことでご本人の居場所をつくりだしている。行事・レクリエーションからも楽しいこと、気分転換のできることを企画して行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の体調や天候に配慮しながら、買い物やドライブ・外食レクリエーションを企画実行している。ホーム中庭へも自由に出られるようになってきている。ご家族様からも外出（外食）の協力を得られている。	利用者は天気の良い日には事業所周辺を散歩したり、自家菜園の畑仕事を職員と一緒に往ったりするなど、五感を刺激し、四季の移り変わりを楽しめるよう支援をしている。利用者がいつでも気楽にテラスに出て外気浴を楽しんだり、事業所の車両を利用して外食や買い物、花見などに出かけ、気分転換ができるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は所持金を持たれてる方はいらっしゃらないが、金銭管理に関する援助も行っている。ご希望があれば一緒に買い物へ出かけたり、好きなものを購入できるように対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望があれば、連絡したい先と相談して、定期的に連絡がとれるような支援をしている。ご家族や大切な友人からの連絡があった時はご本人に繋いでいる。手紙のやりとりも自由に行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはご利用者様の写真を飾ったり、季節に因んだ壁画（ちぎり絵）、生花などを飾って、季節感を感じて頂いている。温かみをだす工夫に努めている。清潔感のある居心地の良い空間づくりに努めている。	広々とした明るい居間にはゆったりと寛げる椅子を配置し、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。居間の壁には利用者と職員と一緒に制作した季節のちぎり絵が飾られてあり、温かい空間となっている。廊下は広く、歩行訓練に活用しているほか、作り付けの洗面台やベンチがあるなど、ゆとりのある空間になっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が自由に居心地の良い場所で過ごせるように声かけしている。日当たりの良い廊下や中庭にはベンチを設け、リビングにはテーブルや椅子、大きなソファを置いて自由に利用していただいている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、危険な物以外は特に制限を持たず、ご利用者様がご自宅で使っていた家具や思い出のある品、写真のなかで暮らせるような配慮をしている。	利用者は居室にテレビやテーブル、椅子、位牌など、使い慣れた馴染みの物品や大切な物品を持ち込んだり、家族の写真などを飾ったりして居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的にはユニット毎にバリアフリーのつくりになっており、安全に利用していただける設備となっている。各居室には表札・目印になるものを貼り一目で分かる様に表示している。個々のできることやできないことをアセスメントし、出来る事の継続、出来ないことへの支援をしている。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 美里

作成日 平成26年10月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	看取りに関しての研修が実施出来ていない	実際に看取りを何度か実施している為、職員全員が経験を活かしながら更に安心して看取り対応が出来る様になる。	研修の実施	1年
2	35	避難訓練時に近隣住民の参加までには至っておらず又、実施記録と会議議事録を分けて作成する	地域住民の参加を要請し協力体制の強化を行う。実施記録も必ず作成する	避難訓練の日程調整を早目に行い地域住民に声掛けし協力を得る。実施記録は毎回記録に残し保管する	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。